

こんにちは

会社訪問記

廃棄物を効率よく資源に還元し、
社会に貢献するサービスを心がけています。

合資会社銭屋鋼産

(愛知県瀬戸市)

川のせせらぎが静かに聞こえ、緑生い茂る谷間の地。都市部の一角にあるとは思えない環境の良さに囲まれた合資会社銭屋鋼産にお伺いし、

山口代表にお話をお聞きしました。

——創業されたのは何年でしょうか。

山口代表 (以下山口に略)

『法人化したのは昭和31年です。事業自体はそれ以前から行っておりました。頑張っって毎日の仕事をこなしてきたら、いつの間にか会社組織になって40年近く経ってしまったというところですね。』



山口代表

——古鉄、非鉄金属を処理されているということですが、事業内容を簡単に教えてくださいませんか。

山口『いまおっしゃられた古鉄、非鉄金属の処理だけではなく、他にも数種取扱っています。家屋解体業務、各種自動車解体、各種ウエス類の販売、そして産業廃棄物処理が事業内容です。でも、ウエイトとしては古鉄、非鉄金属の処理が高いですね。当社に持ち込まれる鉄くずのうち、大半は工場から発生するものと回収業者からのものですが、この他に公共関係が2割程を占めています。現在、瀬戸市、尾張旭市、長久手町の2市1町から出る鉄くずのうち6割程が持ち込まれています。』

——産業廃棄物処理の取扱い品目はどれくらいあるのでしょうか。

山口『汚泥、廃油、廃プラスチック、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、鉾さい、建設廃材を取扱っています。種別としては、収集運搬、中間処理の許可をいただいています。量的には



工場

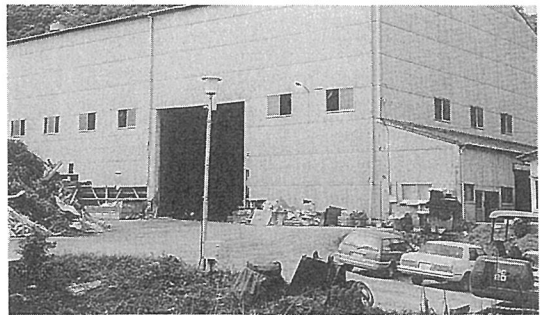
まだまだというところです。』

——貴社では、この事業が社会的にどのような位置付けにあるとお考えでしょうか。

山口『まず、経済の動きと密接な関連がある仕事だといえますね。好況ではものが多く出ますし、不況においては逆に減少します。ある意味で、日本の基幹産業に携わる事業ではないでしょうか。製造する企業だけが経済を牽引するのではなく、処理する企業も経済の隆盛に一役買っていると。いわば産業を活性化させる“重要なサービス業であり、社会的にも必要な、公共性の高い仕事”であると誇りを持ってこの事業をとらえています。これを基本として忘れなければ、今後も当社は頑張っていけると思います。』

——では最後に、産業廃棄物処理も含めた将来展望をお聞かせいただけますか。

山口『いろいろな方向を検討しておりますが、まず事業規模を拡大すること。そして、この業種の社会的地位の向上。企業としても、もう1ランク上に上げられるよう努力していくことですね。産業廃棄物処理に関しては、まだウエイトが低いものですから、徐々に高めていきたいと考えております。スクラップに関連した分野の産業廃棄物処理業者として、確立できればと。そして、地域に密着し住民の皆さんに愛され、発展できれば最高ですね。』



社名/合資会社銭屋鋼産 所在地/愛知県瀬戸市海上町145
代表者/永田博昭 創業/昭和31年 従業員/10名
TEL/0561(84)1195 FAX/0561(82)9165
モットー/【安全・責任・融和】 事務所/本社
営業種別/収集運搬、中間処分
取扱い品目/汚泥、廃油、廃プラスチック、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、鉾さい、建設廃材